



## トロント稲門会について



稲門会ユニフォームを着る会員たち

トロント稲門会の主な活動はゴルフと親睦会です。ゴルフは夏季に行われる早稲田クラシックトーナメントや学部対抗戦の他、年に2回、春と秋に行われるトロント三田会との早慶戦も大きな盛り上がりを見せています。

2011年の早慶戦では春季・秋季共にトロント稲門会が勝利を収め、祝勝会では皆で乾杯し喜びを分かち合いました。さらなる団結と飛躍を願い、オリジナルポロシャツを作成。胸には早稲田校友会シンボルマーク、左

袖にはTORONTOの文字、カナダを象徴するカエデがデザインされたポロシャツを一同身にまとい、早慶戦に挑んでいます。

ゴルフのほかにも、新年会、忘年会、そしてゴルフ後の懇親会を通して会員同士の交流を深めています。今後、トロント稲門会の益々の発展を目指し、Facebookの会員ページを起ち上げ、新しい会員の発掘にも力を入れていきたいと考えております。

飯島賢一(1999年政経)

## トロントの魅力



ナイアガラの滝

カナダは世界で最初に多文化主義政策の旗を掲げ、民族と文化の多様性を尊重しました。それを反映し、最大都市のトロントでも人種のモザイク文化圏が形成され、街並みは多様性に富んでいます。

市内にはチャイナタウンやリトル・イタリー、グ

リークタウン、ポルトガル・ヴィレッジなど、さまざまなエスニックタウンがそれぞれ独特の景観を展開。街を少し歩くだけで、さまざまな

国の言葉や音楽、料理を楽しむことができます。夏季にはカリブの文化と伝統を祝うカリバナフェスティバル、ジャズ・フェスティバル、そして

トロント・インターナショナル・フィルム・フェスティバル(TIFF)など、さまざまな文化行事が行われます。

そんなトロントでの生活を通して私たちが感じるのは、人種・言語・宗教・性別などのさまざまな違いを超えて、相手を気遣い、相手の文化習慣を尊びながら共に心地よい生活を送ろうとする人びとのおおらかさです。懐の広く温かい街・トロントへ、皆さんもぜひ、いらしてください。

青山重樹(1996年商学)



トロントの象徴、CNタワー

## トロント稲門会の人びと

People

## 会長メッセージ

世界第2位の国土を誇るカナダの最大都市トロントは、北米五大湖の一つオンタリオ湖の西岸に発達し、緯度は北海道旭川市にはほぼ一致します。首都圏人口550万人のうち30%以上が、公用語である英語・フランス語以外の言語を話し、その数は方言も含めると140以上。毎年5万5千人の移民を受け入れ、世界中で最も進んだ多文化主義(Multiculturalism)を形成しています。

トロント稲門会の設立は1968年。その後、9.11事件の折には、旅客機がアメリカの空港に着陸できず、カナダの空港で夜を過ごさねばならなくなった方々がいらっしゃいました。この事件をきっかけに、緊急時の連絡網としても機能できるよう、登録稲門会となる手続きをいたしました。

早稲田校風のバンカラ、温かい人間味、親和力は、多文化主義が異民族間の融和を図り、互いを尊重する精神と相容れるところがあり、世界に羽ばたくワセダマンにとっては水を得たような気分になれる地です。これからも、トロント・ワセダマンの縦の絆を大事にするとともに、これを機会に世界の稲門会の皆さまとの交友もよろしくお願ひします。

太宰正昭(1964年理工建築、66年工研修)

●早いものでトロント生活は27年目を迎えました。日本メーカーのカナダ現地法人創設後11年、本社から帰任要請があるころには、すでに家族と子ども日本に帰りたくない症候群にかかっていた。全く畑違いの日本の旅行代理店業務にのめり込むこと14年の後、現在は私の故郷・東京への観光振興を担当しております。

トロントは人口が北米第四の都市ながら、ナイアガラの滝をはじめとする大自然が手の届く所にあり、文化的にも優れた落ち着いた街です。そのような場所で、共に早稲田の杜で学んだ仲間とゴルフや食事をしながらの歓談に最高に幸せを感じています。

津島 晃(1971年商学)

## 会員からのメッセージ

●日本を出て外国で生活していると、より日本人を意識する。早稲田を出て、なおさら早稲田を意識する。大学時代は、妻と出会った以外はさほど実りもなかったが、こうしてトロント稲門会の仲間といるとホッとします。国籍も仕事も業界も年齢も異なる仲間が、稲門に集い、酒を酌み交わし、時には議論し、ゴルフを楽しみ、家族同士の付き合いが広がる。

「集り散じて人は変れど」の校歌の一節が、北のトロントでじわっと染み込む。通算、4カ国約20年の海外勤務も、熱き早稲田マンとの出会いで、非常に有意義だ。トロントは本日も、紺碧の空。

小川一登(1981年文学)

●2011年春に赴任して1年余り。当初想像していたカナダは、広大な国土と雄大な景色、冬が長くて極寒の地、でした。実際はBlackBerry(スマートフォン)のリサーチ・イン・モーション社、旅客機製造のボンバルディア社など多くの世界的企業を抱える先進工業国でもあって、いい意味で予想外でした。また、温暖化の影響(?)もあってか、初めて迎えたこの冬はほとんど雪も降らず記録的な暖冬で、これまた予想外。

これまで経験した2回の海外赴任と同様、トロントでも大勢の早稲田の方々が多面で活躍されているのを目の当たりにしています。こちらは「予想通り」の感動です。

大石仁志(1984年法学)

●初めてトロント稲門会の懇親会に出席した時、「ああ、私はずっとこのような場所を探していたのだな」と思いました。

トロント大学博士課程での留学生活も4年目となりましたが、学生以上教員未満の立場は、まだまだ発展途上。そんななか、それぞれの分野で成功を収めている稲門会の先輩方に温かく接してもらい、一歩先の未来へ、私も引き上げられるような気分になりました。それを実際に実現するにはさらなる努力が必要ですが、今、不安や失敗を恐れず、努力することに集中できるのは、素晴らしいメンターがいるという心強さあってのことです。

杉本清香(2004年文学)



家族ぐるみの懇親会



早稲田クラシックの様子